

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1290401197		
法人名	株式会社 ユニマツ リタイアメント・コミュニティ		
事業所名	ちば若葉グループホーム そよ風 (ユニット:若草)		
所在地	千葉県 千葉市若葉区若松町531-642		
自己評価作成日	令和元年10月18日	評価結果市町村受理日	令和元年12月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 日本高齢者介護協会
所在地	東京都世田谷区弦巻5-1-33-602
訪問調査日	令和元年11月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

若草では、ご自身で「できること」はお手伝いをしていただき、自立支援を目指しています。地域の方のボランティア活動を活用したり、行事やレクリエーションなどを取り入れ皆様に楽しんで頂いております。家族の参加が、今まで少ない様子が見受けられた為、参加率が上がるようにチラシを配布したりと声かけにて工夫し対応中です。また、いつでもご家族様の方から面会に来られるような環境作りを行っています。ご家族様との連携を大切に、対応しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

JRの都賀駅から徒歩15分程の閑静な住宅街に位置する、グループホーム専用に建てられた2階建ての施設で、近くに総合病院やコンビニ、食品マーケットなどがあり、恵まれた生活環境にあります。利用者には比較的自立した人が多い為、職員の編成したビデオ体操に参加する人も多く、利用者間の会話が弾むこともあり、食事の献立を職員と一緒に考えたり準備を手伝ったり、食事の「いただきます」「ごちそうさまでした」の発声役を交代で務める等能力に応じた生活をしています。訪問診療医、訪問看護師と24時間オンコール対応の体制で健康管理を行っており、終末期に入った場合、ホームでの看取りを希望されれば応える体制もできていて、実際これまで6~7名の看取りを行っています。家族にとって最後まで安心して任せることの出来る施設です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価 (若草)	外部評価 (若草と空風を合わせた全体)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域との交流がとれるように、自治会の総会に参加をし関係性がとれるように行っています。散歩などで会った近隣の方には、元気に挨拶をしています。理念に関しては、全体会議でその都度確認をしています。	ホーム独自の理念を共用スペースに掲示しており、これまでも全体会議で職員に確認する等いろいろ努力してきているようですが、未だ全ての職員にまで周知徹底されているようには見受けられません。	理念なきサービスは、とすれば安易に流れがちです。全職員への理念の持つ重みを伝え、周知徹底するためのさらなる工夫が望まれます。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の避難訓練に参加をするなど、繋がりが持てるように取り組んでいます。	自治会に加入し、運動会やフリーマーケットに観覧に出かけたりするだけでなく、会の行事に沖縄太鼓の得意な知人に演奏してもらったり、新設なった自治会館での交流の話を進める等、積極的に働きかけ、町内会長が運営推進会議に出席してくれる等交流が進んでいます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議などでご家族様から相談や話題がでたときは、応じています。また、地域の方々が見学に来所された際にもお答えしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族様より日頃の疑問や意見を頂いたり、看取りをおこなわれたご家族様にも参加してもらい、その時の心境を話してもらうなど行うことで、今後のサービスの向上に活かせるように努めております。	会議は、利用者・家族の他、地域包括支援センター、町内会長にも参加してもらって3か月ごとに定期的に開催しており、同センターに実情をよく理解してもらう他、地域との交流や家族の意見など、ホームの運営に役立つ情報を得る良い機会としています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	わからない事や変更があった際には、相談している。今年度も千葉市介護相談員の受け入れを行っています。	市の担当と直接会う機会はそれほど多くありませんが、電話ではなくできる限り直接会って話すようにしています。運営推進会議での地域包括支援センター、市から派遣される介護相談員とも緊密な関係を築いています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月、全体会議にてその月に行った支援を振り返り、全員で検討し防止に努めている。	毎月の全体会議の中で身体拘束排除等適正化委員会を開催し、本部の制定したマニュアルおよび様式で記録しています。玄関は利用者の安全のため日中も施錠していますが、ユニット間は往來自由にし、利用者が拘束感を持つことの無いよう見守りしています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月、全体会議の中で当てはまる行為がなかったかを、振り返り全員で検討を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価（若草）	外部評価（若草と空風を合わせた全体）	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会が現在ないため、今後そのような機会を設けてスタッフ全員が周知でき、理解できるよう努めてまいります。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い、不安や疑問点がある場合は、理解していただけるまで細かく説明を行っています。入居後も、いつでも確認ができるようにしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時など不安や疑問、要望を聞くように心がけています。契約時にも相談窓口として設置していることを必ずお伝えしています。	利用者については運営推進会議に2～3名出席貰う他、毎月2名の介護相談員が利用者の話を聴き参考になる情報を伝えてくれます。家族については、面会や行事のための来訪時や運営推進会議で意見を聞いています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議、個人面談のみならず、いつでも言えるような環境、体制作りを心掛けています。	毎月の全体会議の時に、率直に意見を交わす場を設けている他、毎月の行事を代わる代わる職員が担当し、感染症、身体拘束、事故防止等委員会の委員に職員を二人ずつ任命することにより、運営に責任感を持たせています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	面談をしたり、職員の状況を見て随時話す機会を設けています。契約更新時には、努力と実績評価を結びつけられるよう検討、更新しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各職員に見合った内部研修への参加を促し、学ぶ機会を設けています。また、個々でも研修を受け資格がとれるように努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内にての内部研修に参加をして、交流を行行情報共有しています。外部と交流ができるよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価（若草）	外部評価（若草と空風を合わせた全体）	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談から契約の段階で面談やお話を伺いケアプランに入れながら関係を築けるように努めています。ご本人様やご家族様より聞き取りをするなど関係作りを務めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時やケアプラン更新時など、常に心境を伺うことができるよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その方に必要な支援は、何か広い視野で考え提供できるよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に生活を送るなかで共に過ごせる環境作りを心掛けています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	近隣の方には、いつでも面会に来てもらえる環境作り、一緒にレクなどにも参加でき、ご本人様と過ごせる時間を共有してもらえるよう努め、遠方の方には、近況報告にてお伝えしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様の協力の元、馴染みの方との外出が継続できるように支援しています。	毎日面会に来訪する家族もいたりして、家族や知人と外出したり、外出に出かけたり、外来の診察を受ける利用者もあります。職員は月1回手紙を出したり、電話等で近況を報告する他、利用者が電話をかけるのを手伝う等して、関係継続の支援をしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	席の配置に気をつけ、入居者様同士が関わり合いの出来るようにしています。面倒見の良い方が一人では難しい方の隣にする等しお声をかけてもらえるような環境にしています。		

自己	外部	項目	自己評価（若草）	外部評価（若草と空風を合わせた全体）	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された後も、体験談として運営推進会議に出席してもらったり、相談があった際には、応じてます。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアカンファレンスのなど、本人の思いや意向を伺い日々の生活のお話の中から把握できるように努めています。声かけで伺える方には、その思いを汲み取るようつとめ、伺えない方には表情やちょっとした言葉からでも意思を読み取れるよう努めています。	日々の支援の中でのコミュニケーションや表情・しぐさから思いをくみ取るようにしています。発語等表現の困難な場合は、表情やしぐさの他に、これまで把握した生活歴や家族からの情報を職員間で共有して支援につなげています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様やご家族様より細かく伺うことで入居時や実調にて確認している。その後のご本人様との会話から聞き取っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々のペースに合わせて対応できるよう心がけています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	スタッフからも「日常の様子や伺い又ご本人様やご家族様からも意見や要望を伺い介護計画に反映している。入居後は一か月目、三か月目と短い期間にてケアカンファレンスを行い、その方の課題ケアに適しているかを確認している。又入院、ターミナルの際は細かく家族、医療と連携をとって対応している。	今回実施した家族アンケートでは、全回答数は少なかったものの、全員が計画について説明を受け一緒に話し合っていると回答しています。その他医療関係者の情報も取り入れて計画を作成し、3か月ごとにモニタリングを実施し、毎月の職員全体会議でカンファレンスを行っています。見直しは3～6か月の短期目票に合わせて行う他、急変時等に随時行っています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りノートや連絡ノートを活用することで情報共有できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様やご家族様のニーズに合わせて訪問マッサージなど利用されている方がいます。また、ご本人様の希望にて訪問理美容など利用して頂き喜んでいただいております。		

自己	外部	項目	自己評価（若草）	外部評価（若草と空風を合わせた全体）	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	それぞれの入居者様のできる範囲で地域の出しものなど参加しています。また、自治会の集会に参加をし、今後の活用できる仕組みがないか確認している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族様の意見を尊重し掛りつけや施設の訪問診療を選んでいただき相談しています。その他の外部医療に対しては家族、医療と相談して適切な医療を受けられるよう協力して行っています。	殆どの人は、ホームで準備した医院の訪問診療を受けていますが、入居前からのかかりつけ医に家族の付き添いで通院している人も2人います。家族の都合が悪い時は職員が支援します。訪問マッサージを受けられるよう適切な支援もしています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問時に、日々の様子を伝え把握を行い訪問診療に適切な診断を受けてもらえるよう努めている。また、様子を前もって往診依頼にて知らせています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	施設状況を伝えたり、細目にお見舞いに伺い状況を確認しています。また、医師との話し合いに相席させていただいています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早めに近況報告で様子をお伝えし、すこしでも変化があった時は、ご家族様と話し合いを設け医療との相談も伝え、スタッフと共有して取り組んでいます。	入居時に看取り介護についての指針を示し、本人・家族の同意を書面で得ています。実際に重度化してきた場合は、医師の指導の下、再度家族の意向を確認し、希望があれば医療行為が必要でない限り看取りを行っています。職員は急変時の対応ができるよう研修を重ねています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時に見立てて研修報告(事故報告書類)を作成するなどし、対応できるか確認し意識付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を行い、その都度反省点を話し合い共有している。地域での避難訓練に参加したり集会にすることで、協力体制をとおしております。	消防署立ち合いの防火・避難訓練、日中・夜間想定での防災避難訓練を2か月に1度実施することにより万が一に備えています。今秋の台風襲来時には、特に被害はありませんでしたが、良い教訓を得て防災用具・備蓄品の見直しを行い、充実させています。	訓練の際は、最初に消火器の有り場所、非常口の場所・開け方、取るべき行動の優先順位等を全員に確認させたい。実際の訓練に入ることが望まれます。

自己	外部	項目	自己評価（若草）	外部評価（若草と空風を合わせた全体）	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	意識をもって対応できるよう毎月の会議に身体拘束、虐待防止委員会の中でも確認している。また、職員間で注意ができるような職場環境に努めている。	呼びかけは基本的には「〇〇さん」で行い、人生の先輩として尊敬の念をもって接し、トイレ誘導は小声で行う等羞恥心にも配慮しています。管理者は不適切な対応があれば都度注意する他、毎月の職員全体会議で研修を行っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何がしたいのか、聞けるような又は言えるような生活の場を作れるよう努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望に沿うような努力をしているが、全介助の方が多く時間がとれない、難しい時もあります。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自身で選ぶことが難しくなっている為、起床時や入浴時後など同じ洋服にかぶらないように注意して支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の出来る範囲ですべて頂いております。	食材は業者に注文を出して週2回配達してもらい、職員が交代で利用者の意見も聞きながら、その日の献立を考えて調理しています。利用者もできることを手伝い、職員も一緒に談笑しながら食事を摂っています。家庭的で美味しいと利用者も話していました。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状態、持病によって対応できるよう考慮して、その日の様子を共有し十分とれるよう支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の声掛けを行い出来る範囲をおねがいしている。義歯の方などにもとりはずしてから口腔ケアをおこなっています。義歯のかたは、ポリデントを使用しています。		

自己	外部	項目	自己評価（若草）	外部評価（若草と空風を合わせた全体）	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	約2時間ごとにトイレ誘導を行い排泄の失敗をなるべくしないよう努めています。その方の排泄パターンを把握し、対応しています。	半数に近い利用者は布パンツ使用で自立しています。排尿は毎回タブレットに入力して管理し、排便はチェック表に記入する等管理しやすくして、1～2時間ごとに声掛け・誘導して失禁予防・自立支援に努めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維の多い食物を多くとり入れ、水分を多くとっていただけるよう支援しています。便秘しがちの方は、医療と支援して対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個浴のため、1人ひとりゆっくりと入っていただけよう努めています。入浴拒否の方が多いため入って頂けるよう声掛けを工夫したり、時間をずらす(午後)対応するなど、配慮しています。	一人週2回の入浴が基本ですが、入浴好きの人には随時対応し、毎日午前中に入浴ですが、午後に入りたいという人、午前中に誘ったところ嫌がった人については午後支援したり、拒否の強い人は担当者を変更したりして無理強いせず柔軟に対応しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	車椅子の方は、疲れてしまうため、昼食後1時間くらい休んで頂き、他の方は、個々でご本人様のペースにておこなっています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎回の往診後、薬の変更がある場合は、申し送りノートや連絡ノートを活用しています。医師や薬剤師からの通達も含め、情報共有しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に合わせてできる事をスタッフと一緒に支援はしているが、認知がかなり進んでもおり難しいことがある。気分転換になるような支援を今後も提供していきます。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族様に協力をお願いしながら戸外でかけられるよう支援に努めています。1～2名を天気の良い日には、洗濯物干しやセンターの横の歩道を散歩しています。	天候や体調に合わせて4人くらいで散歩に出かけ、公園では近くの幼稚園児たちとの出会いが楽しみとなっています。また、町会主催のフリーマーケットや、近くの病院のロビーで行われるコンサートに大勢で出かけたりして楽しんでいます。ホームの廊下やリビングには、チューリップ畑や海ほたるに皆で出かけた時等外出の際の写真が沢山展示されています。	

自己	外部	項目	自己評価（若草）	外部評価（若草と空風を合わせた全体）	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は、難しくなっています。1名だけ個人で持っており訪問販売（ヤクルト）など来所の際は、ご自身で購入できるよう支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様よりお電話をかけたいとの希望があった際には、施設の電話にて使用して頂いております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	車椅子の方が多いため、余裕のある空間作りを努めている。外を眺めるようにベンチを置いたり、ご家族様が来所されても皆様で談話ができ、穏やかに居心地の良い環境を提供出来るよう努めている。	グループホーム専用に建てられたホームなので、玄関、階段、廊下、トイレ等の共用部分はゆったりしており、居間兼食堂は職員の常駐する事務スペースと一体となっているので、明るく広々とした感があり、掃除が行き届いて清潔感もあります。調理場からの料理の音・匂いで生活感、クリスマスツリー等の飾りつけ、花等で季節感も十分です。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仲の良い方とベンチに座ってお話をしたり、時には一人で座って外を眺めたりと個々で過ごせる場所を提供しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様の協力のもと、ご本人様がそよ風の生活に馴染めるよう環境作りなど工夫し、協力をお願いしています。	居室は、エアコン自動止水栓のついた洗面台、クローゼット、ベッドが備え付けで、快適な環境が用意されています。利用者はそれぞれの好みにより、馴染みの家具やテレビを持ち込み、写真や絵を飾り付けたりして居心地よさそうな雰囲気があふれています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全員ではないが、ご自分でCDを流して歌を唄えるように又、電子ピアノを弾けるよう支援している。自ら進んで行われています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1290401197	
法人名	株式会社 ユニマツ リタイアメント・コミュニティ	
事業所名	ちば若葉グループホーム そよ風 (ユニット:空風)	
所在地	千葉県 千葉市若葉区若松町531-642	
自己評価作成日	令和元年10月18日	評価結果市町村受理日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 日本高齢者介護協会
所在地	東京都世田谷区弦巻5-1-33-602
訪問調査日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

空風では、介護度が高い方が多い為、ご自身の意志を尊重し「今、何がしたいのか?」などという思いを汲み取り提供または、支援できるか努めております。
 入居者一人ひとりのペースを重視しつつ掃除や食事作り、洗濯物たたみなども、集団生活という中でも、ご本人様が得意な事、いつもしていただろう家事等も今までと同じように出来るようスタッフ一同支援しています。
 また、閉鎖的にならないよう風通しの良い環境作りの一つとして、天気の良い日には、スタッフと一緒に散歩やスーパーに買い物に行かれたりしております。毎月イベントや行事など開きご家族様にも参加して頂いております。
 地域の避難訓練や自治会のイベントにも積極的に参加や防犯パトロール等を通して地域の皆様との連携や協力していただき、体制作り地域密着を深めております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価 (空風)	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社の理念があるが、スタッフと一緒にちば若葉の理念を作り、覚えやすく身近に感じられるよう、①一致団結⑤モラルモチベーション⑩統一と「④⑥⑩」というスローガンをあげている。 一つ一つの事をスタッフ一団統一し、困難なことがあっても、協力し解決できるようにしています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣のスーパーに買い物を利用したり、ハーモニカや琴のボランティアの方など来ていただいたりと交流を深めています。行事やイベントなどある時には、チラシを配布し地域の皆様に告知を行い参加して頂けるよう努めております。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域運営推進会議や自治会など通して、相談や会話の中の話題がでた際に応じております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	3か月1回行っている運営推進会議の中でご家族様の意見や思いなど頂きその都度、検討し改善など具体的にお伝えできるように努めております。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	年に4回行っている運営推進会議開催時にて、情報提供を行っている。また、市役所や居宅へあいさつ回りの時などに情報提供や共有を行っている。今年も千葉市介護相談員の受け入れを行っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	1階から2階への行き来が自由に出来るよう1階も2階も扉に鍵をせず対応しています。日頃から、身体拘束について正しく理解をもてるように、研修や会議の後の勉強会を開催しています。 そこで学んだことを、このセンターにどう活かして学び取り入れられるよう情報を落とし込み対応しております。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業部研修や外部で開催される研修で、身体拘束・虐待についてまなぶ機会を設けております。スタッフに参加し、学んだ事を会議に発表し情報共有し取り組んでおります。		

自己	外部	項目	自己評価（空風）	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	空風では、成年後見人制度を入居者様がいます。今後も制度を必要な方の入居の可能性もあるが、学ぶ機会がないため今後、学べる機会（研修など）を設けて全スタッフが周知し理解できるように努めていきたいです。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約などの際、書類を読みあげをし十分な説明をさせていただいております。その際に疑問点や質問、不安な箇所がある際には、納得と安心できるまで説明をしております。また、疑問などが終了後でも電話などでも対応しております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様が来所された際に、必ず要望や不安に思っている事、疑問に思っている事などないか会話を通して伺っています。また、第三者窓口として本社や相談窓口を設置していることを伝えています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月行う全体会議や、個人面談、日常のコミュニケーションなどで意見や考えを聞く機会を設け、反映できるよう努めています。スタッフが意見など話せやすいように、現場にてコミュニケーションをとれる時間と環境作りをし、検討しつつより良い方向へ繋げられるよう努めています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日頃からスタッフの状況をみて随時話す機会を設けたり、個人面談をするなどきっかけを作っております。また、契約更新時には、スタッフ個々の努力や実績の評価を給料に結びつけられるよう検討し申請しています。個々の個性を生かしつつ、働き甲斐のある職場作りを考えております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフ個々の能力など見合った内外の研修への参加を促し、学ぶ機会を設けております。自分自身も積極的に外部研修や本社の研修に参加し、他のスタッフへ勉強会等にて、伝え実践できるよう努めております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の内部研修に数人参加し、交流の機会を作り情報共有をしています。また、外部研修へ参加した際には、全体会議や申し送りノートなどを使い情報共有しています。		

自己	外部	項目	自己評価（空風）	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	施設見学の際の相談時から契約に至るまで、面談やお話を聞き時間をかけて伺っております。また、ご家族様やケアマネからの情報を頂きご本人様の状況を把握、理解し、より良い信頼関係を築けるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談の時に、ご家族様が現在困っている事や不安に思っている事、疑問に思う事、要望をお聞きし、スタッフ一同一緒にご本人様への支援を行えるような関係と環境作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今までのご家族様やご本人様のお話をふまえて、現在の状況・ご本人様のペースをみて、ご本人様に今、必要な支援や環境作りは何かを見極めて、支援できるよう努めております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日の日常生活を送る中で、食事作りや掃除など一緒に行い、季節ごとの飾り替えなど様々な面で、暮らしの中で信頼関係や共有し合えるよう努めております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様には、毎月ご本人様の状況報告をしつつ、ご本人様の要望を連絡する際にお伝えする等、密に入居者様の状態を共有し一緒に支えていく関係を築いてます。また、ご本人様と過ごせる時間を少しでも多くもっていただけのきっかけ作りとして、行事のお誘いやいつでも会いにきてくださるよう声掛けをしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	訪問時は、ゆっくりと居室で過ごしていただいたり、時には一緒に外出したりとご本人様も、もちろんのこと訪問者の方も楽しんで頂けるよう努めています。また、ご本人様の希望にて書いたお手紙を投函したり、お電話を貸す等対応しています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	フロアにて入居者様同士で談笑したり、毎日行っている体操や散歩などスタッフが間に入り、会話のかけ橋として対応しています。また、入居者様が他者様の居室に行き来する姿も見受けられます。入居者様間でトラブルになりそうな時は、スタッフがさりげなく間に介入し対応しています。		

自己	外部	項目	自己評価（空風）	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	暑中お見舞いや年賀状のやり取り、電話などで電話を取ったりする関係が続いております。また、施設にて看取りをしましたご家族様が、契約終了後も運営推進会議にてご参加いただき思いやお話をして下さったりと交流があります。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の行動や発言、会話の中で繰り返し言葉からご本人様の気持ちや希望を考察しつつ、一緒に生活をしているスタッフからの情報をもらい、資料による生活歴やご家族様の情報など参考にしつつ思いや意向を把握に努めています。ここでの生活に繋がられるよう、支援できるよう対応しています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	契約時や入居時に生活歴を書いて頂いたり、お話で伺ったりケアマネから情報を提供してもらい、ご本人様の把握に努めております。また、ご本人様からのお話や私物などからも務めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日中・夜間からの申し送りで、入居者様の一日の生活リズムや状況を把握できるようにしています。また、タブレットになった為体調の変化や細かく記録ができ、何かあっても素早い対応とスタッフ同士の情報共有ができるようになっていきます。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃のケアに対しての課題が上がった際、スタッフからの情報収集をしご家族様に状況をお伝えしご家族様からのアイデアやアドバイスを頂いています。また医療面については、訪問看護・訪問診療・個々の医療関係（各専門師）から状態に応じた相談をし、ご本人様に適しているケアプランを反映している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録や健康チェックを毎日記録し、日々の生活状況を一目でわかるように業務日報にしたりケア指標集計表など使っています。また、申し送りノートを使い些細な事や変更点、報告などし、ヒヤリ・ハットを活用する事で、情報把握、共有や気づきができています。会議などで話し合いを行い入居者様により良い支援に繋げるようにしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	空風では、ご家族様のニーズにて訪問マッサージを週2利用されております。また、ご本人様の希望にて訪問理美容など利用して頂き喜んでいただいております。		

自己	外部	項目	自己評価（空風）	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のイベントや自治会での行事への参加やお手伝いなどしています。 また、近隣のスーパーにスタッフと一緒に買い物をするなど支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族様やご本人様の意見を尊重し、以前からの掛りつけの病院やそよ風と連携している訪問診療を選んで頂くなど選べることで、ご家族様と医療と施設との医療について支援と安心できる連携が築いています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月2の専門医療訪問や、訪問診療や訪問看護との24時間電話対応で、入居者様の急変時や相談などし、素早い指示やアドバイスができています。 医療連携を細目にし情報共有を行い健康管理をしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の病院の主治医からの情報を送って頂いたり、こちらの生活状況をお伝えし、情報共有しております。また、ご家族様からのお話を伺ったり入院先とご家族様の経過報告や今後の治療方針の席に同席させて頂きより良い情報交換と共有しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人様の意志やご家族様の意向・主治医との考え・施設での準備など色々ふまえ、情報共有・話し合いをし今後の支援について方針にズレがないように、その都度記録・内容確認を行っています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な勉強会や施設のマニュアルの明確化を行っています。また、緊急時に対して設備の場所やAEDの使い方を確認をしています。また、連絡方法や早急時の流れやご家族様の要望に合わせての把握を行う事が課題です。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防法に従いつつ、2カ月に1回避難訓練を行っております。夜間・日中に対して地震と火災、水害と実施しています。また、年に1回消防署の立ち合いのもと避難訓練を実施しており、地域との協力体制として観覧版やチラシを配り避難訓練の呼びかけや自治会の区の代表者との協力を得られる体制を作っております。		

入居者様

自己	外部	項目	自己評価（空風）	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
量な また その都	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の性格や個性を尊重しつつ、認知症による症状を把握し、ご本人様自身に負担をかけず、否定せずにご本人様の思いや意向を組み取り、話に耳を傾けるなど行い環境づくりやコミュニケーションを行っています。		
		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃からのコミュニケーションや散歩や余暇時間を使い入居者様の言葉や思いをきけるきっかけ作りを行っております。 また、入居者様の強い要望や決定したことに対して、スタッフは、現実にはできるだけご家族様の協力を得るなど支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活リズムやペース、性格を把握し、ご本人様の気持ちを大切に、ご本人様が以前と変わらず過ごしていただけるよう支援しています。また、自発的な行動や発言を大事にしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行事、入浴時や外出の際には、スタッフと一緒に洋服を選んだり支援しております。 また、整容では、ご自分の好みの化粧水など持参しお化粧を楽しまれております。ご自分で行えない時には、ご本人様の好きな色や服装を伺いつつ対応しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の出来る機能に応じて、一緒に献立を決め食材を切ったり、調理や盛り付け、片付けなどしております。 また、ご本人様の状況に応じて食事を楽しく美味しくいただく為に、見た目に気をつけて刻みやお粥など工夫しております。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者様の中には、水分摂取制限の方もいますが水分提供の時間や量など個々に合わせて支援しています。 毎月2回の体重測定を行い増減の大きな変化にも早期に発見しその都度対応してまいります。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に歯磨きの声掛けなど徹底しております。また、ご自分で出来ない方については、スタッフが加入して口腔ケアを行っています。毎月、訪問歯科の先生からの指示やアドバイスなどいただき、個々に合った支援をしています。		

自己	外部	項目	自己評価（空風）	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表などを活用し排泄パターンを把握しております。 また、個々の排泄パターンを把握する事で失敗の回数を減らし、自尊心を傷つけないよう声かけなど工夫し支援しております。排便のコントロールも、主治医に相談し服薬にてコントロールしております。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、起床時に腸の活動を促す為、カルピスや牛乳など提供し朝食には、必ずヨーグルトを提供して自然に排便が出るように工夫しております。また、天気の良い日には、散歩や室内で行える体操など取り入れたりと、対応しています。それでも、難しいときには、主治医と相談しご本人様に、合った薬を処方しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご本人様の体調などを考慮しつつ、その日の気分等に合わせ入浴の対応を行っております。また、ご本人様の今までの生活スタイルで希望や要望に合わせて時間や曜日を合わせるなどしています。気分転換にて、入浴剤や季節もの（柚子など）を使って入浴が苦手な方も工夫しております。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人様の一人ひとりに合った生活リズムや習慣を大切にしつつ、日々の体調状態や状況に応じた支援を行っております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医とご本人様と相談しつつ、ご本人様に必要な薬を処方してもらっています。薬の変更や追加があった際は、申し送りノートを活用し随時スタッフに伝えております。薬の変更等あった日には、必ず記録し些細な変化にも気付けるよう徹底しています。また、薬剤師からも変更がなくても個々の薬の説明をして頂き、間違いがないか確認と連携を図っております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人様の生活歴を把握しつつ、日頃の習慣やリズム、コミュニケーションの中からヒントを見つけております。ご本人様の苦にならないように、役割を見つけ、楽しみ事は続けられるよう支援しております。また、散歩や買い物、外食などで気分転換をはかっていただいております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人様から希望が聞かれた際は、ご家族様に相談し必要に応じた業者や機関に協力していただきながら、希望にそえられるよう努めております。		

自己	外部	項目	自己評価（空風）	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人のお金(預かり金)に関しては、こちらで管理をしています。但し、ご本人様で管理ができる方や強い希望があった際は、ご家族様にもご相談しつつご本人様が管理をしています。ご本人様から必要なものの購入・希望がある時は、一緒に買い物に行ったり代行し購入し対応しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様よりご希望があった際には、施設の電話を使用して頂いている。手紙に関してもやり取りができるように必要なものを用意したり、ポストに投函するなど支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日常生活で使用する物は、入居様がわかりやすい場所や、取りやすい場所など工夫しています。また、何が入っているのかも分かるようラベルを貼ったりしています。入居者の状況や状態に合わせて、テーブルや椅子の配置を変え安全に過ごせるよう対応しています。掲示物は、その季節を感じとれるよう、入居者様にも協力して頂き作成し季節を味わえる空間・環境を作っています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った入居者様は、フロアにて談笑したり将棋をさされたりしています。また、それぞれの居室を行き来したり、居室にてゆっくりとご自分の居室にて過ごされたりしています。また、1階へ遊びにスタッフと一緒にいられるなど、1階の方との交流を深めております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に、以前からご本人様が使っていた、気に入っていた物を今までの生活環境と近く出来るよう必要に応じて持参していただいております。入居後も、ご本人様の要望が聞かれれば、ご家族様と相談しつつ対応しております。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや浴室など、入居様がわかりやすいように、表示しています。また、安全に安心できるよう、日常生活においても歩行時に危険な物や配置にならないよう環境整備を常に行っています。		